

令和4年度淀川区区政会議

第2回教育・子育て部会

日時：令和5年2月2日（木）

午後6時29分～午後8時15分

場所：淀川区役所 5階501会議室

○田口政策企画課長

本日御多忙のところ、御出席いただきまして誠にありがとうございます。

ただいまより令和4年度第2回淀川区区政会議教育・子育て部会を始めさせていただきます。

政策企画課長田口です。よろしくお願いいたします。

お手元の資料の確認は、資料一覧というところを見ていただいて、不足がございましたら言っていただきたいと思います。

事前に送らせてもらっているのが資料1ですね。令和4年度第2回教育・子育て部会の「ご意見をうかがいたい内容」、資料2が「区政会議におけるご意見への対応方針」という2種類の資料も、御持参いただいていると思います。もし、お持ちでない方がいらっしゃいましたらおっしゃってください。「座席表」も作っております。

先ほど申し上げたとおり、中村委員が欠席の連絡を既にいただいております。西澤さんはお越しになるかもしれないという状況です。

続きまして、本日終了時間は午後8時終了目途に考えております。

あと、前回の全体会議と同様、本日も御発言の際、2分たちましたら事務局よりお知らせいたしますので、発言についてまとめに入ってくださいまして、スムーズな進行に御協力をお願いいたします。

それでは、以後につきましては、中本議長のほうによりしくお願いしたいと思います。

お願いします。

○中本議長

皆さん、こんばんは。それでは、次第に沿って議題、お手元の1番、「コロナ禍における乳幼児への影響について」進めて参りたいと思います。

まず、区役所のほうから説明をお願いしたいと思いますので。

○田口政策企画課長

本日の部会では、2つのテーマについて御議論、御意見をいただきたいと思います。それでは、議題1「コロナ禍における乳幼児への影響について」担当より説明いたします。

○森川保健副主幹

よろしくお願いいたします。

まず1つ目ですが、コロナ禍における乳幼児への影響についてということで、御意見をお伺いしたいと思っております。新型コロナウイルス感染症が拡大をして3年が経過いたします。この間、感染拡大防止のため、マスク着用やソーシャルディスタンスの確保など、人との接触をできるだけ少なくするように生活様式も変化いたしました。感染拡大防止のためには必要な対策ではありますが、一方、精神的不安が高まり、人とのつながりを必要とする妊産婦、子育て期の保護者の方々や、人との関わりの中で育っていく乳幼児期の子どもたちへの成長、発達への影響につきましては、今後懸念されるところでございます。

このことにつきまして、これからの母子保健活動に活かすために、地域で御活躍されている皆様の地域活動に対するお考えも含めまして、御意見を伺いたと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○田口政策企画課長

区役所からの説明は以上となります。議長、よろしくお願いいたします。

○中本議長

では、意見交換に移らせていただきます。

コロナ禍における乳幼児への影響について、御意見をお願いしたいと思います。

何かございませんか。

○奥委員

15歳のお母さんが出産した後遺棄した事件が、つい最近あったぐらいで、何でその家族も分からないかなという時代が、コロナもあるんだろうけど、核家族もあるんだろうけど、自分の子どもが妊娠してるのが分からないかみたいな話で、それほどに関わらない。

今日も、子育てサロンしてたんですけど、そこに来る人たちは、本当にもう子どもをいろんなところで交流させようということで、いろいろされるわけなので、要は問題のない人ばかりが集まってくるので。

そうではないところにどうしたら届くのかというのは、地域でもなかなかアウトリーチはいけないのかみたいな話で、それは町内会ですら、生まれた情報を捕捉し切れないというのが現状ですので、小学校に教えてもらって初めて、うちの町内会にいたのかみたいな状態ですので、コロナ禍というのとはちょっと違うかもしれませんが、コロナでますます隔離すること、知らないで当然という世の中になったような気がちょっとなります。その辺はどうなんでしょうね。我々から何かできることあるんですかね。おせっかい焼くしかないんですけどね。

○米田委員

逆に、区役所にこのコロナ禍において、今までと違う相談というのは増えたんですか、やはり区役所自体も変わってきたんですか、相談の人はね。

○森川保健副主幹

そうですね。新生児につきましては、全員、新生児訪問のはがきをいただいたりしてるんですけども、やはりそれでもコロナが心配なので、それも来てほしくないって言われる方は非常にやっぱり増えたようには思います。それと同時に、やはり出産後

初めて、今3か月健診があるんですけども、それもやっぱり3か月健診、1歳半、3歳児健診ってあるんですけど、やはりコロナの感染が怖いので行きたくないという御意見もちろほらあります。

それと、やはりマスクもしてますので、子どもの言葉遅れの問題とかも、表情読み取りにくいとかもありますね。もちろんコロナ、非常に感染拡大してるときに、小学校ももちろんそうだったと思うんですが、給食のときとかは、食事のときは黙食が基本になっていきますので、やはりそれまでは食を通じて、いろいろみんなとお話をしながら楽しい雰囲気でするということが、1つ大きな食事を食べるということだけではなくて、そこからコミュニケーションが生まれるところだったと思うのですが、なかなかそこも厳しくなったので、やはり園とかでもその辺で言葉遅れがあるというようなこともありますね。

○米田委員

逆にそういう親御さんが増えてるということは、逆に外に出ないということは、私たち地域の人間にも会わないというか、余計に情報というのは得られないというのは、役所が得られないんだったら、余計に私たちにはなかなかそういう情報というのは下りてきにくいですね。

○中本議長

ちょっと議長でも話ししてもよろしいですかね。

○奥委員

どうぞどうぞ。

○中本議長

確かに、拒否されてるとかいう方はおられますけど、役所の方が行って拒否されて、そのほかに例えば社協とか、町会長とか、そういう方に相談して、それとかおせっかいの人とか。その人たちと一緒に話ししていくというのは、私はマンションはちょっと難しいと思うんですけど、一戸建てとかアパートとかは、そういう方向で役所の方

も考えていただいたらどうかと思うんですけどね。ただ行って拒否された、それで終わりみたいな感じですけどね。そのほかの手だてというのは考えておられないということですかね。

○森川保健副主幹

健診に来られない方につきましては、必ずお子さんを現認するということは必ずしていますので、もちろん予防注射とか行ってるというお母さんがいらっしゃいましたら、それで了解を取って病院に連絡するということはできるんですけども、なかなか今の若いお母さん方というのは、もともとコロナじゃなくても、あんまり地域との関わりも少ないとか、やはり個人情報に対しても非常に敏感なところもありますので、最後のつながりがこういう区なので、あんまりお母さんが嫌ということを、ぐいぐい進めるところもいかなもんかというところもあって、なかなかそこは非常にやっばりジレンマがあって難しいところですね。お母さんが了承されましたら、もちろんできるんですけども、最低限そのお子さんの姿を見る、現認というところまではしています。

○中本議長

しておられるということですね。

○森川保健副主幹

はい。もちろん、お母さん方が御希望があれば地域のサロンとか、いろんなところの情報提供とか、そこはしていくんですけども、やはり感染が怖いので行きませんという人を、いやいやどうしても来てくださいというところは、ちょっと権限としても何も、難しいところなんですけど。だから、いろいろ弊害が出たりするのは、これかなのかなというふうには思います。

○中本議長

私もちょっとお恥ずかしいんですけど、最近小学校の校長先生とか子どもたちと話す機会があったり、見守り隊とかあるんですけど、最近守秘義務を言うてきはる

んですよ。

これはちょっと話は別になるんですけど、個別避難計画で高齢者の方、そういう逆の場合ですね。高齢者の方は、やはり地域、そうやって頼らないといけない部分もあるんで、何とかそういうお母さんにもやっぱり友達というのが近くにあるんじゃないかなという形もあるんですよ。やっぱり民生の主任児童員なんかが、やっぱりそういうの活躍はされてるんですかね。

○米田委員

そうですね。奥さんもそうなんですけど、主任児童委員、子育てサロンをしたりとかして、そこに来てもらって、新高とかもやはり来られる方とお話是可以るんですけど、今奥さんが言われたように、来られる方というのはやっぱり友達もいたりとか、発信ができる人であって、やっぱり今おっしゃっている、そこに来られてない方をどういうふうに、それはもうずっと昔からの課題で、そういう方はどうやったら引っ張ってこれるかということなんですけど、なかなかそういう情報というのは今は守秘義務というのがあって、役所からこういう子どもさんが生まれられて引っ越しされたよという情報が一切ないので、そこに私たちが入っていくことはまず、いつも奥さんがそれは課題として、いつも言われてることだと思うんですけど、そこがないので、やはりそこで閉ざされてる分、私たちには何の情報もないので、本当に見聞きして、その人たちを探すしか方法はなくって。

○中本議長

ないということですね。

○米田委員

ですよ。今もおっしゃられたように、今若い人というのは本当に町会離れもしてるところもあるし、そういう地域の中に入ってこないから、余計に情報というのは入ってこないですよ。というのがやっぱり一番の問題じゃないかなというのは、すごい感じますけどね。

○中本議長

だけど、コロナ禍で3年間接触もできなかったということで、三津屋ですけど、今度は行事を進めていこうという形で、それで若いお母さんとか引っ張り出そうという形で、それに対して楽しい町会だなとか、楽しい地域だなということで植え付けるのも1つだし、やっぱり役所からはまた逆にいろんなものを、やっぱり話を1度じゃないに、2度、3度いう形で、持っていったいただければということです。確かに役所の方が直接来られるというのは、もう私でも嫌です。

○米田委員

ちょっと身構えてしまいますよね。

○中本議長

身構えるというね。ほんとにそれは思うんですよ。

私の地域は割とネットワークというのが充実してる所なんです。ネットワークさんを、やはり今はもうほとんどなくなったんですけど、班ごとに何か行事が、冠婚、亡くなられた方が、炊き出しとかやられてたんですよ。それは、もう今1町会で1つぐらいの班長さんがやられてたんですよ。あれ見てたら、そういう情報がものすごい早いんです。

逆に正直言ってマンションはしんどいです。やはり、そういうジレンマはあるんですよ。今、役所の方も言われてたの、ほとんどマンション関係じゃないかなと思うんですけど、どうですかね、今。

○森川保健副主幹

そうですね、若い方はマンションお住まいの方が多いですね。

○米田委員

結婚されて、引っ越してこられて、そこで友達もいなくなるとなると、それに今、関わってほしくないという方も多い中に、余計にコミュニケーションを取る場所もなくて、仕事にすぐ復帰するというのもあるから、何かに関わりたいというふうに見

う人も少なくなってるのかなというのが感じますね。

今、中本会長が言われたように、高齢者の方のそのネットワーク、新高のほうでもネットワーク委員会で活動してますけど、やっぱり今までのお付き合いとかがあるからちょっと高齢者の方のネットワーク、見守り活動はできるんですけど、それを子どもさんに置き換えたときに、まずその情報が下りてこないから、そのネットワークであれば見守りしようと思ってもまずできないというのが。

ちょっとでも、守秘義務の中でも情報が下ろせるものがあるのであれば、どこかの部署にでも下ろしてもらったら、そういうのは可能かなとは思ったりとかもしますけどね。

○中本議長

子育てサロンさんをやっていただいておりますけど、逆に保育所とか、ああいうところを利用するというのはどうですかね。

○米田委員

チラシとかポスターとかは、私は新高なんで、子育てプラザというのがあるんですけど、そこに今回も貼らせていただいて、そしたら子育てプラザのほうから、そのチラシを見たよと言って、12月も新たに20組ぐらいの方が来てくださったりとかして、見てくれた方で行こうかなというのは来てくれるんですけど、何回も元に戻ると、やっぱり来れない人、来たいけど来れないとか、隠れてる人というのはやっぱり引張ってこれない。

○中本議長

引張ってこれないんですよ。

○米田委員

見た人は来てくださってますよね。

○奥委員

僕もずっと言い続けてることなんですけれど、やっぱりある意味、本当に子育てで

きてしまうというか、恵まれてる世の中にはなってるんです。本当に公助ということ
はかなり高いレベルだと思うんです。共助に頼らずとも、公助でやっていけるんです
よね。役所とかには、要求はがんがんしていかれるし、権利みたいにわあわあ言うの
は言われますけど、共助でお願いするということは、ほとんどやっぱりされないんで
す。

ということは、僕のずっと言い続けてることは、役所のサービスレベルが高過ぎる。
地域の人に助けてもらってるというふうに跳ね返してもらったら、僕らまだ動けるん
ですけど、社会保障の制度、生活保護もそうですけど、今、僕らもう主任児童委員
も民生委員なんですけれど、本当に民生委員さんに判こ押してもらって生活保護じゃ
なくても、民生委員に全部内緒にして、区役所に行って生活保護という流れになって
しまってますから。

だから、地域が別に何にもしなくても生きていける環境は既にもうできてる、いい
意味か悪い意味か両方なんですけれど。そこでコロナなんかにしても、僕らの子ども
の頃っていうのは、三種混合であろうが風疹であろうが、学校行ったら注射だったの
が、今は、打ちますかどうかされますか、御自身でお決めくださいの話になるわけなの
で、コロナのワクチンは打ってるのか打ってないのか、聞くこともちょっとプライバ
シーで聞けない状態だし、打っていいのか副作用がどうなのかということも、はっき
り言って分からないものなので、コロナにどう付き合っているのかも分からない話なの
で。

本当にもう分からないという情報もあって、なおのこと、公助というところがもう
ほとんど出来上がってて、その公助というのが、逆に自己責任でお決めくださいみた
いな状態になってるというのが、そもそもやはり問題なんじゃないのかなと思ってる
んです。

学校でも、小学校が地域にこんな子がいて不登校で困ってるんですって相談された
ら、ああ、そうなんですか、やっぱり大変なんかもしれないね、お母さんが仕事行っ

てから子どもが学校に行かなくなってるんだったら、世話焼きのおばちゃんが、行こうやって呼びに行ったら行くかもしれないよねってなる。そんなんしてもらえるんですかという状態になるレベルがすごい高いんですよね。学校も地域には依頼しないし、困ってる困ってる言っているだけの話だし。

だから、そういうようなお互い助けてくださいとか、情報提供するということも全部個人情報の中で言えない状態になってしまってるんで、今、冒頭言いましたように、妊娠してるすら分からないし、もう今では隣の人がコロナになってるかどうかすら分からない。だから、そこら辺がもう分からないという人ばかりが横におられるので、それを何とかするというのは、やはり役所のほうが、もうちょっと地域の人たちと助け合いなさいねという働きかけをしてもらわないことには、僕らやっぱりやりようがないと思うんです。

普通に働いて子育てしてる人は、小学校には行けるわけですよね。三種混合のワクチンも打てる権利があるんですよね。それを国からとか区役所とかからはこうアプローチして、このやり取りの情報を我々は一切知らないわけですから。それを、本人からも当然相談は来ないし、役所や学校も困ってるんですよというのがなかなか来ないわけですから。

○梅原副議長

ちょっといいですか。

○中本議員

どうぞどうぞ。

○梅原副議長

ちょっとポイント聞きたいんですけど、コロナ禍における乳幼児の影響はどういう影響が出てるんですか。生活様式が変わって、人との接触とかができなくなって、少なくなって生活様式変わりました。そういう中で孤立している人が結構あったりして、精神的に不安が高まったり、妊産婦、子育て期の保護者の方も、乳幼児期の子育ての

そういう状況の中での乳幼児時期、子どもたちの成長とか発達にどんな影響が出てて、それをどうしていくことが今後の課題という話ですよ。

どういう状況になってて、どういう影響、例えば虐待が増えてるとか、あるいは子どもたちの不登校が増えてきたとか、あるいは乳幼児の子が健診受けに来なくなったとか、そういうような、どういう影響が今出てるんですか、それに対してどうしたらいいかという意見を求めている場ですよ。どういう影響が出てるんですか。

○森川保健副主幹

今はまだ影響は出ていないと思います。影響は出ていないというか。

○梅原副議長

でも、学校で不登校の子、増えてますよ、今。

○森川保健副主幹

そうなんですよ。うちの健診とかでは、言葉遅れとか健診の受診率もそんなに低下はしていないんです。

ただ、やはりお母さん方、やはり特に3か月健診とか、そういうところで質問、自由記載欄とかを見ていると、やはり産後すごく誰ともつながることもできなくなって、健診来るまで非常に不安が強かったとかいうところ辺は、質問では多くなっているのかなと。

○梅原副議長

そこは何か電話対応ができるとか、そういう窓口があるとか、例えば区役所来ると子育て支援課みたいところで相談乗っていただけるとか、そういうのがあるんですよ。

○森川保健副主幹

もちろんです。

○梅原副議長

それは、皆さん、周知されているわけですよ。

○森川保健副主幹

はい、そこは周知はしています。

○梅原副議長

ただ、コロナで感染するのが嫌だから、それは来れないと。そんな場合は、こちらから一報を入れるとか、どうですかというのは、そういう対応はしておられる。

○森川保健副主幹

もちろん産後の新生児、出産しましたら全員新生児の訪問はしておりますので、それで全員は、一応1回は訪問する、もちろんそれ断られる方もいらっしゃるんですけど。

○梅原副議長

その中で、お気づきの子どもたちへの成長とか発達が心配だということも出てきているわけですか。

○森川保健副主幹

そうですね。ライフスタイルも変わって、お父さんが在宅でお仕事をされている方も多くいらっしゃるんですけども、やっぱりその中でやっぱり家で仕事をしているから、子ども泣かせられないとか、そういうところ辺もいろいろ出てきていますので、今後何かそこら辺で、マスクもしてて子どもたちも大人の表情が読み取れないし、ましてあんまり外に出ることもできないということら辺で、今後何か影響も出てくるのではないかと。それに対して、それを先に何かフォローできるような体制を、地域の方々共々、いろいろ行事も地域でも中止になったりとかいろいろありますので、そこら辺で何かこう皆様の御意見をいただけたらなと。

○梅原副議長

今、段々と地域の行事も戻ってきましたよね。

○森川保健副主幹

そうですね。

○中本議長

ほかにどなたか、言っていただければありがたいですけど。どうですか、何か森さん。

○森委員

私の住んでる地域に、赤ちゃんが生まれた人いるんですが、その人は、ふだん接触しようとしませんね。部屋に閉じ籠もってしまっているというか、出てきてくれたらちょっと声かけてあげて思うんだけど、出てくれないんで、1つも1日中全然話しかることありませんね。生まれたというのは分かる。時々赤ちゃんだっこしながら出てはるとか、スーパーへ買いに行くときだけ抱いて自転車に乗せて行ってはるのは見るんですが、なかなか声かけてという段階には行けませんね。現状は、生まれたのは分かっていたんだけど、こちら声かけづらいし、相手も出ていこうとされないというか。だからこの辺のジレンマがありますね。だから、もっとこっちが積極的に声かけしていったらいいもんか、ありがた迷惑と言われそうな気もするしね。だから、その辺が難しいと思いながら。

近所のその生まれた子ども、女の子なんですけども、ちっちゃい子が生まれた。かわいいなと思うんだけど、なかなかその後どうしてあげたらいいのかが難しいと思います。だって、そんな小さい子がマスクしてるんですよ。苦しいのか何かもうよく泣いてるというか、これも現実に、もうマスクなんかなかったらええのになと思うんですけどね。その辺が、お母さんがどう判断しはるんか。

○梅原副議長

どんな影響が予測されますか。

○森川保健副主幹

やはり、子どもにとっては、大人の表情読み取ったりとか、やはり幾ら笑っていても、マスクがあったらどんな表情してるのか。まだ、子どもはそこまで読み取るあれがないので、そこら辺で何かこう子どもの精神的な発達で、何か課題とかが出てくる

んではないかなと思うのと、あとお母さん方につきましては、やっぱりお母さん方のお気持ちもよく分かる、感染させたくないというのは、そこは重々よく分かるんですけども、それで余計にやはり子育てというのはストレスも多いところなので、お母さんが非常にストレス抱えて、虐待の一步手前といいますか、そういうことにはならないかなというのは、非常に危惧されるところです。

○梅原副議長

その影響は大分出るんじゃないかなと、今後出ますね。

家の中でもやっぱりマスクをしてて、お母さんの表情が見えないというのは、子どもにとっては致命的ですよ、やっぱりね。

○米田委員

家の中でもマスクしてるんですかね。私のマンションの中の子どもさんとかは、やっぱり家の中ではマスクをしてないから、家族の中では。

でも、やっぱり3歳の男の子がお母さんに対して、笑ってるのに、ママ笑ってって言ったらしくて、そのときにそのお母さんが、えって思ったみたいで、自分は笑ってるのに、でも子どもはママは笑ってないって。だから、やっぱり2歳だろうが3歳だろうが、やっぱりそういうのはすごく読み取れると思うんですよ。

○森川保健副主幹

子どもっておうちの中だけじゃなくて、地域のいろんな方々、自分の母親とか父親以外の方々とも接して大きくなっていくもんだと思うんですけども、家の中では基本家族はマスクしてないかなと思うんですけど、地域に出て、やっぱり自分の親以外の人と接するとき、やはり外に出たらやっぱり皆さんマスクは。

今後マスクの緩和も言われてますが、どこまでそれがどうなっていくのかということこは、ちょっとまだ未確定ですし、やはりマスク要らないって言っても、日本人の気質からしたら、やっぱりマスクをしとかないと何か駄目なのかなと思ったりも。

やはり、子どもたち大人の表情が読み取れないというところは、やはり非常に危惧

してるところです。

○奥委員

37. 5度超えてたら、入ったら駄目ですよとかいう施設もよくあるじゃないですか。入り口でこうして温度計られて、で、アルコールお願いしますって言うじゃないですか、あれ言われたらやらないといけないって分かるじゃないですか。

でも、子育てサロンで従事してる人たちが、本当にワクチン打っておられるのか、分からないわけですよ。来ておられる人がワクチン打ってるのかって、分からないわけですよ、それをワクチンは皆さん打つべきですよとなったら、みんな打ってはるはずになるんですけど、自由でしょう。

マスクも外していいですよって言うたら、みんな外すのが今の時期。みんな、もうここまで来たら、第8波終わってみんなマスク外すんやって決まったら、みんな外すと思うんですけど、自由ですよって言うから、またばらばらになるわけでしょう。

結局、誰かが責任のまた言われるとしんどいかもしれませんが、旗振ったらないと、やっぱりいけないと思うんですよ。誰かが言うてくれはったら、マスクはやっぱり取らないと表情も分からないし、これからは逆に熱中症のことを思ったら、マスクは取るほうがいいんですよ。学校で先生が言うたら子どもたちは、はいって聞くのに、地域のほうだったら皆自由、自由、自由で、ワクチン打とうが打たまいが自由でしょうってなってくるので、そしたらやっぱり構えはる人は、子育てサロンで、ひよっとしたらあの人らワクチン打ってないかもしれないのでしょうって。そしたら私やめときますわに、やっぱなるん違うかな。

子育てサロンで自由にする人たちは、ワクチン4回打ってるということで、お願いしますよという通達があれば、ここにいる人は多分みんなワクチン打っておられるって分かるじゃないですか。何でそうならないんですかね。

○森川保健副主幹

そこは国のほうも特段の方針はないですよ。それぞれワクチンの副反応とか、そ

れぞれ体の体調もあるので、強制はやはりちょっとそこは一定できないのかなというのはありますよね、と思います。

○奥委員

分からないですね。

○森川保健副主幹

ただ、今、厚生労働省のほうは、基本屋外ではマスクなしということは、コマーシャル等でも皆さん、放映してますので御存じかと思うんですが、ああいう放映してても、やはりあんまりマスク取ってる人も最近多くなってるかと思うんですが、基本はまだ皆さんマスクを屋外でもされている状況ですね。

○梅原委員

一番この中で難しいというか問題になっていくのが、やっぱりお母さん方の子どもに対する対応ですね。子どもの成長、発達、ほとんど養育者といいますか、保護者に影響されているというのがほとんどなので、子どもが本当に成長、本当に、何て言うんですかね。

○森川保健副主幹

やはりお母さん方、今若い世代、私たちから見ても、やはり本当に早い時期から YouTube、待ち時間は YouTube をずっと見せて、本当にこの間も、いつも BCG 接種、5 か月、6 か月の赤ちゃんにするんですけど、その乾かす間でさえ、もう YouTube 見せてるのというのが、何かこう当たり前になってるので、なかなか本当に、ちょっと今のお母さん方の感覚とは、やはり私らとは大きな本当にもうずれがあるのかなというのは思いますね。お母さん方、いろいろネットでも調べてね。

○梅原副議長

研究者の中でも、脳への影響ということで論文出してる方もいますけども、それがさほどお母さん方に対して、これやめとこうというところまで行ってないですもんね。

○森川保健副主幹

そうですね。

○梅原副議長

やっぱり Y o u T u b e 見てくれてたら、おとなしいですもんね、その時間帯は。

○森川保健副主幹

そうなんです。非常におとなしいです。本当におとなしいです。

○梅原副議長

お母さんにしてみたら楽ですよ。もう 2 歳児なんか、嫌々期に入った子なんか、ほんまに Y o u T u b e 見ててくれてたほうが、お母さん、健全に毎日生活できますもんね、いらいらしなくてね。

そうすると、やっぱり本当に子どもの成長、発達にかなり影響があるんじゃないかなと。福井大学の友田先生なんかも、マルトリートメントということをよく言われますけども、やっぱり不適切な養育というのは、そういうところから出てくるのかなという気がするんですけど、難しいですね、これね、本当に。

お母さん方に、もっと人と触れ合ってくださいよって言うのも、そしたら触れ合う場所どうするのみたいな話ですし、地域の方々がもっと見回ってやってくれ、いやいやうち要りませんよって言われたらそれまでだし。行政の方々が行っても、そういう感じで。地域でも、そんなおせっかいやめてくださいよとか、別に隣の人と話せんでも生きていきますよとか、そういう中で、コロナだけじゃなくって、日頃からそういうような生活様式をどうこう、それが子どもへの発達、愛着形成とかにすごく影響するんですよということをどう伝えていくのかとか、それによって生活様式どう変えてもらうのかというのは、これは本当に難しい問題ですよ。

サロンとか、そういう場所をいっぱいつくっても、来る人はまだいいと思うんですけど、来れない人ですよ。そこを本当、手厚い支援をどう入れていくのか。この支援の仕方というのは、やっぱり行政と我々民間とで、やっぱりプロジェクトチームぐらいをつくって、何かこう仕組みをつくっていかないかなのじゃないかなという気が

しますね。

地域も、今ちょっとマンパワー少ないですからね。マンパワーないですし、じゃ、そこどうするのかと言うと、そういう仕組みをつくって、事業化して支援、予算をつけて、やっぱりそうやって動いていただくような仕組みに予算をつけて、そこに人を配置してやっていくとか、あるいは、地域での施設の職員さんなんかが、もっともっと地域の子育て世代の人たちの相談窓口として開放するとか、博愛社さんなんか、何か最近すごいのを建てはりましたよね。あそこ地域の人たちも自由に行けるようなところもあって、で、感染対策もしっかりやられているので、そういうところに、もっともっと協力をいただくとか、あるいは地域の会館をフリースペースにして、これもやっぱりなかなかそこには管理する人が要るとか、そこにやっぱり予算をつけていかないと、なかなか難しいんじゃないかなという気はするんですけど。

何か地域のサポーターチームをつくるとか、子育てサポーターチームをつくって、そこに予算を入れて、ちょっと子育て終わった方々に、何かこうケアサポートみたいな何かをしていただくとかね。そういう、この人ちょっと、それは支援員さんもやってるでしょうし、児童委員さんもやってると思うんですけども、そこだけでもちょっと人数的にも難しいんやったら、そういうサポート体制をしっかりとつakって、行政のほうから委託をして、動いてもらうという。そういう仕組みをやっぱりつくっていかなくあかんのかなという気は。ここで今後のために何かお考えをとということならば、そういうことなんかなって思うんですけどね。

もうやっぱりちょっとボランティア的に、ボランティアな世界ではなかなか動いてもらうことが難しいんじゃないかなと思うんですけど、やっぱりそういう行政的に仕組みをつくって、予算組みをしていくことによって、何かもうちょっと進んでいけるんかなという気がするんですけどね。

○奥委員

やっぱりちょっと提案させてもらいたいのは、やっぱり行政は予算というもので動

かすということができる力があるのと、やはり措置というものを提供できるというものを、やっぱり活用するしかないと思うんですね。

それ、学校さんでうまく使っておられるなと思うのは、うちの高校なんかが、海外旅行の修学旅行に行く人はワクチン4回打っててくださいとか、ルールがあるんですよ。今、大阪府もみんなやってますけど、ゴールドステッカーのあるお店で、ワクチン打ってたら安くなります、旅行支援もワクチン4回とかあるんですよ。

だから、ワクチン打とうが打たまいが自由ですけど、この特別な利益を得るためには、こうしなければならないというのが、そのセットをうまく使えば、本当に修学旅行、子どもに海外旅行行かせたいからというので、ワクチンがぐっと増えたんですよ。それをやはり仕組みとして、自由ですよって、強制はできない世の中になってるんですけど、さすがにやはりワクチンを打つといってもらわないと、旅行会社とか飛行機とかのことがあるので、最低限の4回以上ワクチンをお願いしますと言うと、打ちます。これはやっぱり仕組みだと思うんですね。そういうやり方しか、僕できないんじゃないのかな。全部自分で決められる。今も、子どもさんのワクチンも自由でしょう。打つか打たないかは、お母さん判断ください。自分のことだったらまだ打つか打たないか自分で判断できるけど、子どもは、子どもがもし後遺症、将来残ったらどうしようと思ったら、ますます手が出ないですよ。

子宮頸がんワクチンなんかでも、やっぱりあれで振り回された女の子なんか、本当にどうせい言うのって、やっぱなっちゃってるわけですよ。あれもだから、子宮頸がんワクチンは、リスクはあるけど打ってくださいって言って打った。副作用があったらしっかりそこは手当しますというのが、しっかり明確にしときながら、こうしてくださいってやっぱり言わないと進まないと思うんですよ。

コロナでしたら、本当にワクチンを打ってる方だけサロンに来てくださいって言ったら、皆、安心して来られると思います。ワクチン打った人ばかりがいるはずという事で、行く人も行くし、私ワクチン打ってないから行かれへんし、そんでいいし

と言うたら、それはそれでいいと思う。それ今、分からないでしょう。自由でしょう。それが一番よくないんじゃないのかなと思うんです。

そこで、誰が決めるのって言うたら、自己責任じゃなくって、やっぱりトップが決める、区役所が決める、予算を執行できる立場の人が決める、責任を持って決める。その姿勢がやはり要るんじゃないのかなと思います。それは区役所さんなのか、言うたら国、すぐ投げはるわけで、総理がって言うんですけど、総理が悪い、自民党が悪いって言っても、結局選んだの国民でしょうということに戻っていかないといけないので。

我々は、誰かのリーダーが旗振ったことに、やっぱりそこに合わせていくということが必要なんだと思うんですけどね。そしたら区役所がそういうふうにして言ってもらったら、はっきり言って我々動きやすくなります。かなり動きやすくなる。

○米田委員

仕組みの中に、やはり情報が下りてこないというか、予算はその後についたとしても、情報がやっぱり個人情報とか守秘義務というのは下りてこない、下ろせないんですよね。まずそこを解除しない限り、幾ら予算を組もうが、組織を整えたとしても、情報がないものは、こっちから拾い上げるしか方法がないじゃないですか。

○奥委員

いや、だからその情報を引き出すための1つのテクニックというのが、ワクチン4回の証明を見せれば割引が利くという。

○米田委員

違う。そういうお子さんを引き出してあげたいってなると、そういう情報って区役所しかないでしょう。そういう困ってるお子さんとか、そういう悩んでるお母さんというのは、こちらには情報はないから、区役所に情報があって、そういう人たちの居場所をつくってあげようと思っても、そういう人がどういう、どこのどなたさんというのが分からないと、そういう組織立てってできないんじゃないかな。

○奥委員

それだから、そこが今言う、知恵の出どころなんで、難しいのは難しいんですよ。

○米田委員

だから、そこがやっぱり情報が下ろせないという、個人情報。もう本当に今、一番引っかかる個人情報とか守秘義務というので、やっぱり役所がそこを下ろせないというのが、なかなかそれ以降に進まないというあれなのかなと思うし、ワクチンに関しては、ちょっとそこは私は、奥さんと考え方が違う。

ワクチンは打ちたくても打てない人もいる中に、打った人だけ来てください、で、打ってない人は来れないという、そこはやっぱり今のこの国からすると差別になってしまうとなるので、打ちたくても打てない人からすると、やっぱりその言葉というのは引っかかると思うので、そこはもう平等として、本当に何のイベントでも、うつりたくない人は行かないと思うんですよ、お手伝いもしないと思うんです、それは自分で自己判断することだと思うので、行く行かない、手伝う手伝わないというのは、やはりその人が判断すべきじゃないかなというのがあって。

○奥委員

それはそれでよくって、修学旅行でワクチン打ったら、ちょっと本当に副反応出て危なかったんですって言うから、だから海外旅行のほうがいいけれども、うちは仕方がないから九州にするで納得するんですよ。だから、旅行行くときには50%の割引がつくんだけど、ワクチン打ってない、打てないから仕方がないという納得ができるんです。それ仕組みなんですよ。

極端な話、子育てサロンに来て、自分のお住まいを教えてください、で、子どもさんの家族構成教えてください、これから子育てサロンに登録していただいたら、地域クーポンを2000円お渡ししますよと言うたら、多分くれはるんですよ。それ仕組みでテクニックなんですよ。それによって、要らない人は本当に絶対書かないですよ。

だから、海外旅行に修学旅行に、今行けない人も配慮するのは大事なんですけど、その配慮することによって、それだったら最初からもう海外の修学旅行やめとこうという声が出ちゃうんです。だから、僅かな人の懸念によって全体の海外旅行ができなくなっちゃう。そこで学校は考えたんですよ。こういう条件の人は行けますよ、こういう条件じゃないと行けませんよ、だから残念ですけどって言っても、そらそうやるねということのをうまくしとけば、打つ人が増えてくる。これは本当にうまい経営をしている気がします。

子育てサロンも、利用してもらってクーポンまで出しますよという財源措置ができれば、それによって出てくる人も、でも絶対出ない人は出ないですよ。それはそれでいいと思うんですよ。そういうことでもやっていかないと、今の本当に寸断された情報が行かない状態というのは、前へ進まないような気がします。

○中本議長

すいません。ちょっと時間がありますので、申し訳ないです。お二人何か、どうぞ。

○西澤委員

テレビでも、いろいろせめぎ合ってる状態が時々報道されてますので、実際問題やっぱりみんな、何か自分の子どもさんの修学旅行とか海外旅行とかいうようなきっかけがあったときは、何らかの態度表明しないといけないという、そういうときがどうしても出てくるんですけどね。これ地域でいっても、やっぱりそういうせめぎ合いみたいな状態が全国的にあっちこっちで出てきて、今、海外なんかは、ほとんどマスクをしていないとかいう状況がかなり多くなってきてますんで、日本人もやっぱりその辺り自分に問いながら、あるいは自分が今までワクチンを打った、打ってない辺りで判断をよりどころを求めて、考えを示していく時期が来ると思いますね。

こういうのは、なかなか全国的に見て一律に、例えば今度のゴールデンウィークの連休後にちゃんとなりますというような、そういう問題でもないんですよ。やっぱりそういう周りがいろいろ心配しながら、あるいは個人個人で、何らかの態度を要求

される事態に達したときに、やっぱりそれをどうしても余儀なく自分の態度を決めていくという、そういうことがこれから出てくると思いますね。

それは、だんだん国の厚生労働省にしてもそうだし、いろんなレベルで、どうそれをどうクリアしていくという辺りで、議論をこれから巻き起こってくると思うんで、私は今ここで、この淀川区だけでどうするかということよりも、全国的な動きとかを見ながら、そういう賢い選択をやれるような条件整備というんですか、きっかけをつくってあげるということがいいんじゃないかなというふうに思います。

やっぱり、日本人って周りの様子を見て判断する人が多いから、どう言うんですかね。今は、まだ自分に及んでこない世界やろうと思ってはるかもしれんけど、周りがどんどんそういう動きを示してくると、みんな、私もぼちぼちあそこはやめとくとかとか、あるいは、それに変わる何らかの手だてを打とうとかいうふうな、個々人がそういう判断をされるんじゃないかなというふうに思うんです。

だから、それまではちょっと、今どんなきっかけがどうなるかというのは、ちょっと予測できないですけど、そういう時期が来たら、それなりにぱっと広がっていくん違うかなということで、あんまり悲観的な、何でも、時代がやっぱりそういう、こういうだんだん暑くなってきたら、こんなマスクをいつまでもやってられないという、そんな状態もやっぱり生まれてくるわけで、その辺は時期を見ながら、あるいは周りの意識をある程度把握しながら一人一人が判断をしていくと。

もう一個、公的機関というか、地域で何ができるかいうたら、そういう皆さんの声を聞き取りながら、私らは、こういうほうがいいんじゃないかというような提言をしていくということで、進めていくということになるのかなとは思っているんです。

以上です。

○中本議長

ありがとうございます。

すいません、皆さん盛り上がっていただいたんですけど、時間も押し迫っているの

で、次の項目に行かせていただきます。

2 番目、「コロナ禍・第 8 波における学校体育施設開放事業について」移らせていただこうと思います。

これについては、区役所の方、説明のほうをよろしくお願いしたいと思います。

○井上教育支援担当課長

事業自体のまず説明ですけども、小中学校において運動場や体育館、中学校に関しては格技室も含めてなんですけども、学校として使っていない時間帯、平日の夜間とか休日におきまして、地域の方々、住民や子どもたちも含めて開放して、スポーツでできる場や機会を提供している。

これによって、生涯スポーツの振興であったり、教育コミュニティづくりであったり、こういったことを目的にやってる事業でございまして、ちょっと私たちもくろみがあれやったんですけど、このテーマ決めるに当たって 2 週間ちょっとぐらい前の時期だったんですけども、年末から年始にかけて、大阪府の陽性感染届出が 1 万人とか超えて、すごい増えてた時期でして、そういう状況の中でも、一般的に通常どおりの感染対策はしながらですけども、通常どおりの活動していいよと言ってたんですけども、もっと増えるんじゃないかと見込んで、そうなったときにいかなかなというような御意見をお聞かせいただけたらなと思ったんですが、逆に、ちょっともう 5 0 0 0 人切ったりして減ってるような状況なんですけども。

別にこの事業中止を求めるような気持ちは一切ないんですけども、増えた場合どうなんかなというような御意見があれば、聞かせていただけたらなと思いました。

以上です。

○中本議員

はい、あり
がとうございます。

では、意見交換に移らせていただきます。学校体育施設開放事業について、何か御

意見ございますでしょうか。

○米田委員

学校施設開放事業に新高で関わってるんですけど、確かに第8波に制限もなく活動はしてました。チェックリストも決められたルールの中でやっていただいていたんですけど、逆に、本当にこういうこと言うの失礼だとは思うんですけど、学校施設開放をこの部会で、議題として上げられたじゃないですか。

この学校施設開放事業を御存じじゃない人がいっぱいいる中に、これを皆さんにどうですかとお話を聞くのではなくて、もっとみんなで話し合える内容を上げていただいたほうが、みんな、これはこう違いますかと、さっきみたいな話ができるのに、関わってる人間以外はなかなかこの内容は分かりませんよね、学校施設開放事業って。

何でなのか、私はこの案件、私は関わってるからこのことについて把握して話はできると思んですけど、すごい難しい内容を上げられたなというのをすごく感じたんですけど。

いや、中本会長とかはどういうふうに感じられたのか。

○中本議長

突然、ちょっと言われましてもね。私も。

○米田委員

ちょっと難しい内容、何かディスカッションしにくい内容じゃないかなってふと思った。

○中本議長

施設開放というのは、実際やってる内容は把握はできてません。

正直なところ名前だけです、今のところは。

○米田委員

確かに関わってる中で、今はすごいもうチェックリストも細かくって、使用するに当たってはルールもあって、大阪市からの手引の中で全部、それで各地域が各地域ご

とにルールを決めながらさせていただいて。

この前、本当に先週ですか、学校開放の会議があって事務責任者とか委員長とかが来て話も聞かせていただいて、今までどおりというか、そのチェックリスト、コロナ禍においての使用の仕方ということで継続して使用するということになって、本当に事務手続的なものはやっぱり委託金があるので、お金のこととか書類とかもすごく面倒くさいぐらいいっぱい出したりとか、今回も2月、3月、4月で提出するものも多い内容の学校施設開放事業なんです。

でも、なかなかこれを皆さんで、議論するのは難しい。

○西川委員

施設開放は僕も関わってたんですが、別にこれをどうのこうのじゃなくて、やっぱりこれは置いて、小中学生の体力の、今そっちのほうの問題だと僕は思うんですよ。

体力、コロナでこうやってマスクして、運動とかできていないような状況の中で、今後体力を向上させる、僕も中学とかずっと小学校のアンケートもずっと見てたんで、関わってたんですけど、やっぱり今後体力とか上げる方法を今この場でされたらいいのかなとは思いますが。

○米田委員

学校の施設開放は、各地域ごと使用される団体というのはいろいろで、もう本当に大人の方とか、昔ながらのバレーボールとか卓球さんとかでね。

○奥委員

ちょっといいですか。

○中本議長

どうぞ。

○奥委員

僕は、十三の地活協の中で、これ何か区政会議で何かないですかって聞いてきたん

ですけど、体育施設だけじゃない話なんですけれども、具体的に出たのは、全ての施設で統一した共通ルールをつくってほしいという要望がありました。

例えば、何々小学校ではアルコールで消毒だけで使えるけど、何々小学校はマスクもしないといけないとか、ばらばらだということ。

○米田委員

いや、もうルールはあります、きちんと。

○奥委員

そうそう。それぞれがルールをつくるということなんでしょう、要するに。

○米田委員

いや、マスクは。

○井上教育支援担当課長

淀川区で示してやってます。

○米田委員

ありますよ、消毒もね。決まってやってます。

○井上教育支援担当課長

淀川区で決めてチェックリスト作って、こういう消毒の仕方してくださいって指定してます。

○奥委員

というのは出てるんですね。

○米田委員

はい。

○井上教育支援担当課長

ただ、奥さんおっしゃられたように、多分学校ごとにそのリズムというかルールが崩れていってるところが出てるん違うんかなとは危惧してます。

○米田委員

でも、今はきちんとそういうふうにしてくださいというのは、継続として。

○井上教育支援担当課長

米田さんのところは、新高地区でやってくれてると思うんですよ。

○米田委員

はい。

○井上教育支援担当課長

僕も全部の学校チェックできないんですが、団体によっては、きっちり差が出てきているのかなと。特に今、屋外はマスク取っていいですよってなってるんで、休日のソフトボールとかキックベースとか、多分活動している方ほとんど取ってるというふうになってきているんで。

○米田委員

活動するときは取ってます。でも、待ってるときとかというのは、マスクは使用してますし、そこら辺は監督さんないし指導者の方には徹底してもらってますね。

○奥委員

僕もちょっと施設開放委員会、PTAのときはいたけども今は全然知らないんで、今の人がどこまでチェックリストをどうしておられるか僕も知らないんですけど、一応地活協の中で出た言葉としては、やはりガイドラインができれば全ての施設で共通ルールにしてほしいという意見があったということは、浸透していないということなのかもしれませんね。

○井上教育支援担当課長

かもしれませんし、ちょっと僕十三調べてないですけども、施設開放委員会の中で実施してる利用団体とは全く別に校庭を借りてやってるところがもしあるとしたら。

○奥委員

それはないですね。一応、学校施設開放委員会の中で許可をして、初めて何曜日の何時とか、そうやってやっていくわけなので。その中でルールが、この小学校のと

きではこうだった、でもあっちの小学校ではこうだったとか、違うというのがやっぱり出てるということを言われたんです。

○米田委員

でも、チェックリストはもう全員共通なんです。新高だろうが木川だろうが、頂いてる、チェックリストも全部一緒なんです。だから全部共通です。

○井上教育支援担当課長

そのはずですけどね。

○奥委員

なんですよ。でも。

○米田委員

だから、ちょっとそれが不思議で、逆に不思議で、何でそういう話が。

○奥委員

それはたまたま、十三の地活協から出ただけのことをお伝えしてるだけなんですけど。

○米田委員

多分、共通ルールはきちんと、チェックリストも皆さん一緒ですし。

○奥委員

ただ、だからそういう意味では、そのガイドラインとかいうのもある意味だから、僕の勝手な想像ですけど、やはりちょっと自分たちで運用していくというようなところがあるのかなとも思うんですよ。

要は、よそはこうやけどうちはこれでいい。要は、スタートラインが、皆さんところで御自由にルールつくってくださいみたいな空気がやっぱりあるみたいなので、なので、それはそれでいいことかもしれませんけども、こういう人の意見からすると、そろえてくれたほうが助かるという意見ももちろんあるので。

○井上教育支援担当課長

十三、ちょっとまた小と中とありますし、事情ちょっと知ってますんで、また後で話しさせてください。

○奥委員

そうですね。確かに施設開放なんかでも、木川で教えてる曜日と、十三で教えてる曜日とかで同じ内容なんですけども、2つにまたがってるような団体があったりもします。そうなってくると、木川はこうやのに十三はこうとか。子ども同士もクロスするんですよね。十三の子が木川に行ってる子どもも既に出てきちゃってるので、ますますこれは、中学校もみんなそうですね。

○米田委員

それは行き来はありますね。空手なんか私たちも。

○奥委員

どんどんこう交ざっていくので、ましてや適正化の何か、就学の選択制もできてるぐらいなので、結構またがるの。

○米田委員

それはどこで使っても、全然そこは問題ないので、使用するに当たっては。

○奥委員

それがね、違うというんです。

○米田委員

いいえ、すごい分厚い要項があるので、それ全部読んでいただいたらそこに全部書いてます、きちんと。

○奥委員

そうなんですね。まあ、そういう声があるので、しっかり守ってくださいにしたほうがいいんじゃないか。

○米田委員

なかなか、これも読み切らないと分からない問題って多々ありますよね。

○梅原副議長

コロナ以降はどういうふうを考えておられるんですか、この事業を。

○井上教育支援担当課長

今、行動制限ないだけじゃなくて、そういう施設の利用のルールというのは、学校だったら学校で文部科学省から出ますんで、それが本当に何もなければ完全に自由に、今もう3年以上前の時代に帰っていいんじゃないかなと思いますけども。

5月8日から必ずそうしますとかそういう問題ではなくって、それぞれの施設の使い方というのが出てくるとしますので、それをちょっと待ってる。淀川区独自でそういうルールというのはつくりにくいと思うので、ある程度共通のルールで。

○梅原副議長

市のほうからそういうの出るんですか。こういう使い方しましょう。

○井上教育支援担当課長

市じゃなくて国であったり、都道府県レベルであったり。

○梅原副議長

もうそれが出たら、そのようにやるしかないんですか。

○井上教育支援担当課長

ないと思います、はい。

○梅原副議長

今後の取決めは、国の言われたようにやりますで、もう。

○井上教育支援担当課長

だから、この議論しようと思ってるときは1万人ぐらい出てたので、それが今もうこれで、もう5月8日から5類になったりとかそういうふうにどんどん時代が変わってきてしまったので、ちょっと出しているテーマと今の時代とが合っていないというのが、申し訳ございません。

○中本議長

大分変わりますね、何か。

○奥委員

やはり会議の中でも、餅つきなんかでしようというときに、やはりまだ食べ物
はあかんやろという人もいてはるし、そなんいつまでも言ってたら、子どもが小さ
いうちに餅をつくという体験もできなくていいのかという人もいたりとかいうのが、
みんなばらばらになるでしょ、今ね。

その中で、大阪市淀川区の小学校での餅つきというのは、もう子どもたちにそうい
う機会を与えるというのを優先するようにというようなことで旗振ってくれたら、ま
た違ってくるんでしょうけど。どうされます、どうされますと言うから、もうばらば
ら、ばらばらばらになってしまうと思うんです。

そこもだから、いいや悪いはつきもんなんですけど、どうしても地域の方が駄目っ
て言うんだったらそれは構わないですけども、やはりもう今のこの令和5年に入っ
ては、こういうふうに使ってくださいって言ってもらったほうが、あんまり自由、自由
が行き過ぎてしまって、自己責任、自己責任行き過ぎて、結局誰も責任取らないから
何も動かなくなってるのがやっぱりあるのでね。そこで文句あったら区役所に言うて
ください、ただ区役所はこう決めたんですという姿勢が欲しいのかなという気はしま
すね。

○井上教育支援担当課長

何かそういう、きっちり物差しを示せるようなものがあったら、もちろん地域活動
もしやすくなるとは思いますが。でも我々、僕なんかのレベルで決められる権限ない
んですけども、区としてこうしますというのは、区だけの考えじゃなくて、やっぱり
区としても何か指針が欲しいだけなんですよね。それがどこにもないところが、マス
クの着用でも一緒じゃないですか。自由やというところがあるんでね。

地域での気持ちは非常に分かるんですけども、はい、じゃ、指針示しますというわ
けにもなかなかいかないのが、今の現状かなと思います。

○奥委員

コロナがまだまだ分からないから仕方がないんでしょうけど、体育施設でも子どもたちにとってなってきたら、もう28度の温度計が超えたら、それはもう出たらいけないとかもう決まるでしょう。基準というのが明確になってるわけですね。それは28度だったらいけないのか、27度だったらいけないのかみたいな話を決まらないから、みんながああだこうだ言うだけの話で、取りあえず基準というのができてれば。

今、令和5年4月以降を見たときには、取りあえず、屋外での体育施設の利用には、マスクは原則不要って言い切ったほうがありがたいんですよね。それでもする人はするでいいんですけど、取っていい時代なんだねということをみんなが分かったら、共通理解の中で進めていけるので、それがありがたいという話と思います。それ、誰が決めるの、皆さんでというから決まらない。

○米田委員

マスクは使用しなくてもいい、記載されてますよね。屋外はね。

○奥委員

うん、決まっています。

○米田委員

書いてますし、熱中症アラートのときは、屋外は使ったら駄目ですという記載もあります。

○奥委員

決まっています。だから多分僕、ここで今取っても構わない話、時代は。

○米田委員

違う、学校施設に関しては載ってるんで。意外と細かく学校施設の要項は、ほんまに載ってます。

○井上教育支援担当課長

はい、やってるつもりです。

○米田委員

逐一見てもらったら。

○奥委員

それをやはり、その中でもやはり厳しく思ってる人と、緩く思ってる人がやっぱりいるんでしょうね、きっとね。

○米田委員

それは、ここで言うのは失礼か、その基準を守られてる方と、守られてない方がいらっしゃるということなんですよ。うちは厳しいんで。

○中本議長

すいません。次は3番目の議題に移らせていただきたいと思います。

3番目は、令和4年11月の区政会議、全体会議における御意見の対応方針についてということで、区役所の説明をお願いしたいと思います。

○田口政策企画課長

対応方針ということで、A3の資料です。11個ございまして、今日の部会と直接関わるような質問とかはあいにくなかったんですけども、かいつまんで、例えば3番とか見ていただきまして、これは西岡さんのほうから、加島の一時避難所の公園が除草されていないということで、これにつきましては、行政連絡調整会議というのもございますので。これは、区役所と警察、消防、建設局等の区内各事業所で構成する、行政運営上の連絡調整を行うという会議でございまして、これも年6回程度開催しておりますので、直近の1月10日の会議で、西岡委員御指摘の件は建設局に申入れをやっておりますので、また対応をしていただけるかなと期待はしているというところで

す。

あとは、4番、奥委員のほうからいただきました点は、運営方針の、今現在どうなっているのかという御質問いただきましたので、またこうなったというのはお示したほうがいいのかなどは思っております。

新大阪の件も、割とたくさん御質問いただきまして、大阪都市計画局と計画調整局の課長に来ていただいて、いろいろ答弁はしていただいたということで、例えば８番見ていただきまして、これも奥委員のほうから御指摘いただいたということで、この質問につきましては、実は、当然、大阪都市計画局と計画調整局も知っている中身でございます。

ただ、地元の取りまとめさせていただいてる区役所としましては、その辺のパイプ機能は継続していきますし、前回１１月の全体会議でも申し上げたと思うんですが、実はエリア指定になりましたけども、今後の具体的に新大阪駅周辺地域のまちづくりにつきましては、民間事業者の主導となるということで、計画ができた段階で次、都市計画法の開発許可申請という流れになっていきますので、その辺またこの場を借りまして、改めて御説明してというところになります。

９番以降は、会議後意見いただきましたというところで、西岡委員、永野委員にいただいているというところです。

最後１１番、永野委員からは西淀川区で、大学生が２人委員さんがいるそうです。直接西淀川区の課長に聞いてみたら、何か割ともう自然発生的といいますか、非常に活発な若い方、若いときから地域の活動に参加してる方がいらっしゃった。やっぱりその人も、自然と地域の中で目立った方でいらっしゃる。

なかなか、多分ほかの区でも同じような状況と思われますが、若い方がそういう、区役所の取組とか地域の取組に積極的に参加するのというのは課題と思う中で、割と、西淀川区のほうがもしかしたらレアケースなのかもしれないなというところでございます。

御意見とか何かこの件にかかわらず、質問等ございましたらよろしくお願ひしたいと思ひます。

以上です。

○中本議長

では、意見交換に移らせていただきます。

区政会議における意見の対応方針について、御意見ございますでしょうか。何かありましたら、お願いします。

○奥委員

すいません。この4番の僕が出した話ですけど、運営方針の現在の地点というのも、この表の中に入れていただける話なんですかね。

今の運営方針、ここの目標値を書いているところを、今がこうだからこういう目標にしましたということが載ってくるという理解でいいですね。

○田口政策企画課長

そのとおりです、はい。

○奥委員

はい、分かりました。

○中本議長

ほか、ございませんかね。本日の議題は以上でございます。

最後に、その他として、全体を通して何か御意見、質問等はございますでしょうか。

ごめんなさいね。ちょっと、私分からなかったことあったんで教えてほしいんですけど、学校施設開放の件なんですけど、スポーツ推進委員さんおられますね。

○井上教育支援担当課長

はい。

○中本議長

学校開放のどういう役割をされてるのかというのとですね、それと、学校の屋外のグラウンド、芝生にされてるところもありますね。それがどういう状況になってるか、ちょっと教えてほしいんですけど。

○井上教育支援担当課長

学校体育施設開放事業と直接的に関わりを、区のほうから、あるいは大阪市から直

接に関わりを持ってくださいとか、そういうようなことは一切ないので、地域活動の中で偶然スポーツ推進委員してる方が、そこに関わっている、ある利用団体の中に関わってたりとかいうことはありますけども、こちらからお願いをしてるとか、そういうようなことではなくて、個人の活動範囲の中でできた関係性がそれぞれ残っているところは残っている。

○中本議長

そういうことですね、はい。

○井上教育支援担当課長

あと、芝生に関しては、最初は大阪府が始めた事業なんですけども、大阪市もいいことだということで、もう10年近く前ですかね。やれるところは、学校の職員がするんじゃなくて、地域でその芝生を育成しようという委員会をつくっていただいて、そこで年間を通して活動してもらうわけなので、できるようであれば申請をしていただけたら、大阪市が補助金出しましょうというふうなことで始めたところでございます。

だから、グラウンドを全面芝生にしているところは、淀川区ではないと思います。半分ぐらいやってるところとか、今やもう、ちょっと枯れてしまって芝生できてないところもあるんですけども、一時期は淀川区6か所か7か所ぐらい小学校あったかと思います。

今でも芝生が残ってる場所あるんですけども、実はもう、大阪市全体でその補助金事業というのを打ち切っておりまして、地域での自主的な運営にもうお任せしているところが、最初から地域活動としてやってみませんかという呼びかけでやった事業ですので、非常に根づいているところは根づいているところであるんです。今も緑のところしっかりあるんですけども、やはり、もうあと数校かなという感じになってはいますね。

ちなみに、市内なんですけど、自分の地元の小学校は緑ふさふさなんですよ。だか

ら、どんな方がどういう関わりをしておられるかというのは、いろいろあるかと思うんですけども、地域によってどの事業を、重要性を置いて続けていこうかいうところにあるのかなというふうには思います。

○中本議長

私も、芝生の件に関してはいい話だなと思ってたんですけどね。やはり何か、PTAさんが皆、全部やってはったみたいで、結局途切れてしまったという形になってしまってるんですよね。だから、残念やなと思いながら。どんどん建て替え、学校の建て替えということもありまして、余計に芝生がなくなっていくという形なんですけどね。

○井上教育支援担当課長

もともと中庭とか、学校の形状にもよるんで、日当たりのよしあしとかもありますし、水のやりやすさやりにくさもありますし、もともとの水はけの問題もありますし。

最初やるときってやっぱ、ある程度の面積、人手が要るんですよね、植え付けないといけないというところで、しばらく水をやり続けられないといけないというところがあるので、なかなか時期によって手がかかったり、ちょっと空いたりとかもあるんで、なかなか永続的にするのは大変だと思いますけども。

○中本議長

例えばその結果、子どもたちはどうだったというアンケートとか取ったことはないということですね。

○井上教育支援担当課長

私、淀川区来て3年なんですけども、今の時点で、小学校で子どもたちにどういうアンケートを取ってるかというのは、ちょっと知り得てはないです。

○中本議長

知らないですかね、はい。

○井上教育支援担当課長

青々としてた頃は、昼休みに靴脱いで遊びましょうって当然あったとは思いますが

ど。

○中本議長

そうですね、はい。コロナの関係もあったのかも分からないですけどね。

何かほかに、意見ございますでしょうかね。

○梅原副議長

さっき子どもを、子育て中の方々とか、子どもさんへの仕組みの話なんですけど、区のほうでも把握はできるだけされてるんだろと思うんですけども、地域でそういう訪問とかですね。

最初は多分、行ってもいいですよという話にはなると思うんですけども、どこが子育て中の方なのか、子どもさん最近生まれましたねみたいところは、何か地域で訪ねていく人というのがやはりいないと、なかなか届けてくださいって言っても、また届けられてもそこら辺のことを地域のほうに、各町会とかに情報を渡すということではできないということであれば、やっぱり訪問される人たちを仕組みでつくって行って、そこに何か予算組みをしていくとかですね。そういうのをしながら、もちろん民生さんとか、いろいろおられると思うんですけども、その方々だけでも大変だと思うんですね。

その辺の施策をしっかりして行って、そして親御さんが孤立しないように、子どもが健全に生活できるようにということまで行くんだったら、しっかりそういう仕組みをつくってやっていかないと、これはなかなか今の現状では難しいんじゃないかなという気はしますね。

だから、そこは本当に仕組みづくりと、予算をどうしていくかというところを入れていかないと。やっぱり、子育てをある程度終わられた年代の方々に、そういう行政のほうからお願いをして、そういう方々に動いていただくというような、そういうことをやっていかないといけない。

それと、いろんなところに支援の窓口がありますよというところを、もうちょっと

周知していかないといけないのじゃないかなと。多分、広報誌、よどマガなんかでも、私ずっと見させていただいてますけども、いろんなこと載ってます。でも、ほとんどそういう方々、読んでないんじゃないかなと思うんですよ。

そうすると、個々に訪ねて行って、こういうところありますよという丁寧な周知の仕方というのが必要なのかなと。言ってきてくださいって待ってるんじゃなくて、こちらから、こういう支援の窓口がありますよというようなところを積極的にやっていると、この問題はなかなか進んでいかない、ますます孤立化していく家庭がある、子どもたち、弱者が犠牲になっていくというふうなことも歯止めが利かないんじゃないかなということです。ここは、思い切った仕組みづくりをしていかないといけないんじゃないかなという気がします。

ちょっと最後に、お願いということで。

○西川委員

1つだけいいですか。

○中本議長

どうぞ。

○西川委員

コロナ禍の子育ての件なんですけど、正直、僕らがスマホそんなに慣れてないんですけど、若い人って、先ほども子どもに見せる話もそうなんですけど、これだけスマホが発達したら、スマホを逆に利用する方法があったほうが、僕はいいかなと思う。

小学生とかなると今度はスマホ見過ぎで睡眠不足とかいう問題もあるんですけど、もう母親の人が、例えばスマホのほうが一番頼ってるような気がしてしょうがないんで、その辺何かあればなと。逆にスマホを利用するいうんか、方法はあるかどうか分からないんですけど。何か。

○武田保健・子育て支援担当課長

子育て中のお母さんが、例えば、自分の子どもが何か月で、予防接種の何を受けな

いといけないという情報の入手がなかなか難しいということで、大阪市でスマホを使って場合分けというのを昨年つくっておりまして、これからもどんどん子育て情報は、ホームページ上げたりとか、プッシュ型にしていったりとか、大阪市全体ですけれども、取組は進んでいくということとなっております。

○西川委員

そういう形。

○梅原副議長

ホームページもなかなか膨大な量なんで、なかなか見れないですね。

○武田保健・子育て支援課長

それは、ちょっとそのサイトに行っていいただければ、御自分のお子様の何年に生まれたとかを打ち込んでいただいたら、ぱっと出てくると。そういう仕組みにはなっていないまして、普通のホームページとは少し違うつくり方はしているという。

○梅原副議長

もうちょっとう、イラストとかいっぱい入れて、分かりやすい言葉使ったりしないと、行政用語で見ても分からないと思うんですね。そういう工夫も要りますよね。

○奥委員

大阪市で、いろんなLINEとかをたくさんやっておられるのは、お母さん方すごい敏感には知っておられます。お母さん方、やっぱりスマホでいろんな情報集めて、離乳食のことやら何から、全部大阪市のホームページから引っ張ってくることもされるんですけど、先ほど僕言ったみたいに、全部地域を素通りしちゃうんですね。僕が独自で子育てサロンというのを本当に、ポスター貼って、QRコード貼って、直接メールで会員になってもらってるんですね、子育てサロン。そうすると、やっぱりコロナが終わって再開しますって投げたら、立ち上がり一番早いです。

やっぱり、掲示板とか回覧板なんかと比べたら、子育てサロン復活しますって来たら、待ってましたで、ぽんっと返ってくるのは、やっぱり今はスマホですわ。それは

やっぱり、僕らが自分でやらないとできないでしょう。大阪市とかのホームページ全部、公助へ公助へ飛びますわ。それを何とか共助に跳ね返してもらおう仕組みが、やっぱり必要なんだろうと思いますよ。

何とかそこをしてもらえたら、本当おっしゃるように、一番子どものことでどうしたらいいのかは、本当お金かけてもらったら動きます。

○中本議長

奥さんとこの子育てサロンがそういうことをやっておられて、うちもそれはやってなかったんですよ。実際子育てサロンでやりますよで来たのが2組だったんです。やっぱりそういう情報網というのは、確かに要るかも分らないですね。やっぱりポスターと回覧しかしてなかったいうところですね。

○梅原副議長

子ども食堂やっておられるところなんかを、うまく利用と言うたら言葉悪いですけど、子ども食堂は結構いろんな人来られていますので、そういうところに何か周知のものを渡すとか、そこと関係性を持っておられる方に、何かこう働きかけるとか、そういうのもやっぱり一つの手かなという気がするんですけど。結構、淀川区の中で子ども食堂やっておられるところ、結構あるんじゃないかなと思うんですけどね。

いろんな窓口をつくるべきだと思うんですけど。いっぱいあると思うんですよ、いっぱいあると思うんですけど、子ども食堂に来られる方って、結構地域の方が、密着した方が来られるので、そこは一つはチャンスかなと思いますけどね。

皆さん、子ども連れて来はりますもんね。

○奥委員

言い替えたなら、子育てサロンに来れる人というのは、子育てに専念できている方なんです。やっぱり結局問題のある方は、もうゼロ歳からでも保育所に預けて働かざるを得ない人が、やっぱり問題なんです。そうなったら、子育てサロンをいくら宣伝しても、もうゼロ歳から預かってくれるところつくってよって、ただで預かって

よのほうがやっぱり強いので、だから全部公助へ公助へしか流れないです、そこは。

○梅原副議長

本当、来られるところはある意味安心ですよ。来られてないところ、どう把握して、どう支援を入れていくかというのを、そこが本当に仕組みつくらなあかんとこなんですけど。そういう、そこは本当難しいですよ。どうしたらいいんですかね。

そういう中でやっぱり、ちょっと日常、ちょっと困っておられる方なんかが、子ども食堂とか行かれてる方もあるし、社協からも連絡があって、あそこちょっと支援してくださいとかいう連絡も来てたりするので、そういうところのほうで、結構把握しなあかんところの人たちがそこに来られるケースは結構あるんじゃないかなと思うので、そことちょっとタイアップみたいなのところも、いいのかもしれないですね。

○奥委員

高齢者なんかは、まだまだとは言いながらも、民生委員にやはり定期的に訪問してくださいという仕組みはできてるんですね。それも長年かけてきて、民生は入ったら当たり前のように、今、月間だから回らないといけないよって、仕組みはできてるんですよ。

でも、子どもさん産まれたからということで、こんにちは赤ちゃん訪問とかしてる地域もあるんですよ、大阪はないですけどほかの地方では、主任児童委員さんが、子ども産まれたらこんにちは赤ちゃん事業という仕組みがあるから、産まれたら必ず、おめでとうございますと、この地域でいろいろしてる者ですというような機会があるんですよ。

例えばやっぱり、長年の中でルールとか仕組みとか、何かそういうもんやねってのができてればそうなっちゃうんですよ。何で、大阪は民生委員さんは、あくまで生活保護者の訪問は道はできてるけれど、でも赤ちゃん産まれたからということで、こんにちはという道はないのかなという、やっぱりその仕組みがないだけだと僕は思いますけどね。

○田口政策企画課長

ちょっといいですか。今度、安全・安心なまち部会で、今おっしゃったようなこと実は話し合うんですよ。

区民アンケートの結果、そういう行政中心としていろいろ窓口たくさんあるんだけど、それをなかなか周知できていないという課題、我々感じておりまして、それどう改善したらいいかというのを、部会の委員さんに投げかける場がございますんで。また、今の話とつながりもありますんで、またぜひ何か、区のホームページにでもアップいたしますんで、何らかのフィードバックはできるんじゃないかなとは期待はしております。

○梅原副議長

支援員さんなんかが、都度見守らないといけないところに支援員さんいてくださいよみたいなところあるんですけど、あれはもうちょっと幅を広げて、そういう大変なところに支援員さん行ってくださいねじゃなくて、重度じゃなくて軽度のところから支援員さんを増やして、どんどん行ってもらおうと。

多分、個々のなじみをつくらないと、多分相手側も話もできないと思いますし、やっぱり顔見知りになるとかなじみになるとかということでない、相談しようとか、あるいは話ししようとか、難しいと思うんですよ。

ですから、もう何気なく訪問していただくというところから始めて、大上段に構えて行政から来ました、区役所から来ましたじゃなくて、民間レベルで、何か地域に支援員さんがたくさんいて、民生さんとの連携をつくりながら、いろんな人が狭い地域で関わっていけるような、そういうのもやっぱり一つにはあるかなという気はするんですよ。

大上段に構えて、来ましたと言うと、いや、そんなに要りませんとか、いやいや私虐待なんかしてませんよみたいな、そっちのほうにすぐ意識が行ってしまって、そうではなくて、この人も何回も来てくれるけど、おせっかいな人やけど一回相談してみ

ようかなとか、そういうなじみみたいなことをつくるような仕組みも必要なんかな。そのためには、支援員さんを増やしていくとか、そういうこともやっぱり一つにはあるかなという気はするんですけどね。

そこは予算の問題もあるし、いろいろあると思うんですけど、支援員さんそんな予算かかってないと思うんですけどね。

○米田委員

逆に役所側としては、そういう仕組みをつくりたいと考えてられてるんですか。そういう話とかも、役所の中で出たりとかするんですか。

○武田保健・子育て支援担当課長

子ども家庭支援員でよろしいですか。そのことをおっしゃってますか。

○梅原副議長

そうですね。

○武田保健・子育て支援担当課長

そうですね。うちのほうは、実は2名委嘱しているんですけど、本当にお願ひした実績がない状態なので、そういう方々を今増やすという計画はないです。

○米田委員

ないんですよね。

○梅原副議長

だから提案してるんですけどね。

○米田委員

提案してるんですけど、でもやっぱりこの件というのは昔からこういうふうに、地域が入っていったらどうかという話はずっと昔からしてますよね。

○武田保健・子育て支援担当課長

地域の方というよりも、研修を受けられた子ども家庭支援員です。

○米田委員

そういう方ですよね。地域の人間が見守っていこうっていう話で、情報を下ろしてくれたら幾らでも、そういう民生とのつながりもあってというけど、やはり守秘義務とか個人情報というので閉ざされて、そういう仕組みがなかなか取れないんですという、以前もそういう返答ありましたよね。個人情報を下ろせないという。

○武田保健・子育て支援担当課長

子ども家庭支援員はどちらかというと、虐待のおそれがある御家庭を少し見守っていただいて、ちょっとお子さんや保護者の方とお話ししていただき、見守りに近い感じなんです。

○米田委員

支援員の方ですよね。でも、地域の人間にはやっぱりそれは下りてこないですね。

○武田保健・子育て支援担当課長

そうですね。その方には研修をして、子ども家庭支援員という委嘱もさせていたでいています。

○米田委員

きっとそういうのが周知されてない、支援員になるに当たって、そういう資格を取らないといけないという、まずそこからだと思うんですよ。

○武田保健・子育て支援担当課長

研修ですよね。

○梅原副議長

いや、それは行政のほうから支援員になってくださいねという話から、研修受けてということなんで。

○米田委員

そういうのを知らない人がいてというのが、まずそこが最初の問題なんで、やっぱり、その仕組みをつくったらいいいというのは、本当にもう将来的な夢であって、でもそれに当たる支援員のそういう資格をただ・・・。

○梅原副議長

いや、それはもちろん地域の民生さんとか、児童委員さんがそういうふうに家庭訪問されて、いろんなことがやっていけるんだったらそれはいいんですけど、今そういうことが仕組みとしてできてないわけじゃないですか。

だから、児童委員さんをもっと増やすとかいうふうにしても、マンパワーはないわけです。地域にマンパワーないでしょう。だから、あえてそういう仕組みをつくって、子育ても一段落した人たちで、そういうボランタリーな世界ではなかなか集まらないので、そこに予算を入れて、そういう人たちを増やして、そして支援員さんというような、今、見守りををしていただいて、その虐待を起こるかもしれないという、そういう重度じゃなくて軽度なところも支援員さんに。支援員かどうか分かりませんよ。そういう人たちを増やして、やっぱり地域で見守ってもらうとか、子どもさんできたんやねとか、なじみになりながら最終的には見守っていくような、そういう仕組みをつくったほうがいいんじゃないかということを提案しているんです。

今まで、それ言ってるけどできてないんじゃ。

○米田委員

じゃなくて、支援員になってる方じゃないとお願いしてないっておっしゃられたから、だからそういうのをもうちょっと周知して。

○梅原副議長

いや、だからそれをもっと増やしたりとか、そういうのを考えていかないと、なかなかこの問題は解決、解決はしないんだけど、それに向かっていかないと、いつまでも虐待が減らないし、お母さん方も本当に大変なことになってるしね。

今、国も児童福祉法変わりましたよ。まず家庭に支援を入れていきましょうというふうに国もなったので、それをやっぱりやっていかないといけない。そのための仕組みをどうつくっていくのかということの一つとして、ちょっと今、今日は提案させていただいたということですよね。

じゃないと、今までもうちょっと大変で大変でって言うばかりで、本当にしっかり仕組みをつくって、予算入れて、大勢でやっていきましょうということをやらないと、ずっとこの話ししてても全然進まないんですよね。思い切ってそういうことをやらないといけないんじゃないですか。

それが、区でできんのか、大阪市全体でやらないといけないことなのかということになると、淀川区は勝手にそんなことはできませんと。予算の問題なら、できたらもう淀川区だけではできないかもしれませんが、淀川区で最初にやって大阪市を動かせばいいわけですよ。大阪市がやって国を動かせばいいわけですよ。

というような考え方は、私は個人的にはそう思っています。

○奥委員

今の、スクールソーシャルワーカーさんとかだけではなくって、今大阪市として、やはり子どものサポートするようなことの人材も、区役所からという形で動いてくれておられて、動いてんのは。

○梅原副議長

いやいや、ピアサポーターもたくさんおられるんですけど、結局連携も何もできてないし、仕組みができてないから、それぞれがそれぞれで勝手に動いてるだけの話なんでね。

○奥委員

ただ本当に、少しはよくはなってるのは実感はしてます。そういう意味ではね。

ただ、僕ら児童委員の立場からしたら、本当に前もお願いしたけども、区役所で出生届出したら、町会長さんとか地域の児童委員さんから訪問してもいいですかということを聞いてくださったら、そんなもん、年何回も行くようなお年寄りの訪問だけじゃなくって、産まれたときに1回だけ行くだけやったら、僕ら児童委員多分行くと思います。情報があったら行くと思いません。

○米田委員

行く人、私は行きますけど、ほかの人が行くかどうかというのは。

○奥委員

私行くでしょう。行けへんところは多分、委員長が行くと思いますわ。多分、児童委員としての仕組みとして、やってくださいと言って情報与えたら、行くと思いますよ。既に今の児童委員だけでも機能すると思います。

○中本議長

よろしいですか。申し訳ないです。時間もございますので、進行を事務局にお渡ししたいと思います。

○田口政策企画課長

中本議長、議事進行ありがとうございました。

御意見票がございますので、今日まだ言い足りないということがございましたら、一応2月16日木曜日を締切りにさせていただきますので、よろしくお願いします。

それでは、本日の教育・子育て部会終了いたします。

長時間にわたりどうもありがとうございました。

—了—